2/18

権力の走狗、日共一民青の仕組まれた暴力的自治圧殺を粉砕し、封鎖闘争を貫徹せよ！

ヨいの新たな局面―大学当局の試験延期―部分的妥協策＝近代化路線による対抗運動と日共民青の反革命軍の公然たる登場

われわれのヨいは、新たな局面を迎えつつある。それは一方では、大学当局の試験延期によってもたらされ、他方ではその下での日共＝民青、反革命軍の公然たる登場によって。前者の何者は何か？試験延期は、われわれの教養部学生会館封鎖を含む拡大全学的闘争の中で、大学当局の内部に動揺をつくりだしつつあることによってもたらされた。しかし当局は、そのことを逆にヨいの鎮静をそらすことに用い、時間かせぎをする中で、部分的妥協策＝協議会方式による近代化＝学生の体制内組合を果たさんとしている。しかも当局は、文学部、商学部等に見られる如く、教養会議における教授の「権威」をフルに活用して、上からの学生圧殺にのりだしているのである。

われわれのヨいの全学化に伴い、当事の様相も一変しつつある。長期持久戦はその内容であり、政治的の異なる強化こそわれわれの任務である。

全ての学友諸君！　クラス討論の更なる強化の中で、自治会ークラス単位の下に、学部自治部隊を結集せよ！　本学生大会に向け無限スト体制を築きあげよ！

ではオニの内容は何か？

「日共＝民青反革命軍は如何なる形で登場したのか？」

オ一、班日の出口論の時間に「民主化綱領」についての討論をけけた二名の学生（二部政治学専攻）に怒、民青は10数名で意いけ乱り取り出した。この事実とその場にいた教授は五とめている。

オ二、班夜8時から、二部自治会（民青）は、自治部会（学生部長、教授）等、約40名と大衆集団を行つた。その中は「民主化綱領」「封鎖解除」という全くヨ中に対する事実に敵対があつた。

オ三、そのような集会に大学当局教授、学生委員会、事務局員が同席していたのは、一体何を意味するのか。これは当局が我々に対して「前はさけ」とかいう言葉が全くデタラメであつたこと、我々は当局のこの本質と民青への支援による学生への敵対と対峙する。

オ四、この8時からの集会は、その前の事件（オ一の事実）に対する二部政治学専攻の、抗議を無視して、ケンカをもちこんでいた。

オ五、自己批判を要求して、この集会に入つた改革会議の諸君へ、たもや民青は、暴力を加えた。ここで我々は二部の

統一全学　24学生会を拒否撤回、全学無期限ストライキ体制を打築せよ！